



NO. 776  
 発行  
 13・2月28日  
 国鉄労働組合  
 新潟地方本部  
 発行責任者  
 関川 和彦  
 編集責任者  
 教 宣 部

# 拡大として強化へ

## 第30回国労東日本本部 拡大委員会

第30回国労東日本本部拡大委員会が仙台市「岩沼屋」で2月8日開催されました。前日には労働講座も開催、学習会も含め2日間の日程でした。

9時30分に、佐藤副委員長の開会あいさつが、「3・11大震災から2年になろうとしている。その地で開催することになった。現在の状況は、大震災・原発事故・ライプライン・鉄道など厳しい状況が続いている。グループ会社・本体については、グループ会社へ、子会社の発足や検修全面外注化など効率化が進められている。



**議長団の選出**  
 議長団に東京地本の横倉委員と  
 湊委員を選出しました。



労働条件・職場の労働環境の改善に、国労の取り組みが求められている。そして、職場の労働条件改善の闘いと組織拡大は一体のものだ。昨年10月に労働協約を締結した。組織拡大全国統一行動について、しっかりと議論し全体が揃って行くこと。この拡大委員会は全体の意思統一を図る場だ。自公政権が発足した。憲法改正など強硬な政権だ。平和・人権・労働環境など守る闘いを進めていく。東日本本部が一致団結した委員会にしたい。」とありました。

### 全員の出席を確認

9時25分現在、委員18名中18名の出席。役員全員の出席、構成員全員の出席を確認しました。委員会が成立しました。

その後、高野委員長のあいさつ  
 来賓のあいさつが続き質疑・討論  
 に移っていきました。

### 15名の委員から発言

●組織拡大は緊急な課題として取り組んでいく。全体が安心して働ける職場作りを目指す。他労組への訴え、飲み会・世話役活動など取り組んでいく。一括和解以降、32名拡大している。新規採用者の加入を取り組んでいくこと。関連会社からの加入もあった。平成採の加入を進めていく。組織対策費を活用し取り組みを展開、GSのネットワーク作りなどで交流を深めていく。現場長へ組合説明会実施を申し入れ開催した。全力で取り組み、新採者が1ヶ月間以上未加入だった。どこの労働組合が信頼できるか訴えていく。組合は労働者を守る、相談し加入を決定している。東労組から圧力があつて、社会人採用者は職場の状況など判断し未加入だった。労働環境を変えるチェック機能が重要だ。GSの雇用継続を求めてきた。

**2013年  
春闘総決起集会**  
 3月9日13時30分～  
 地本事務所



●大震災後、以前として復旧・復興は進んでいない。各線区はまだ部分開通で、全線開通は難しい状況だ。設備メンテナンス安全担当・教育担当は何をやっているのか見えてこない。無担務の社員がいる。その社員は昨年、主務試験に合格している。除雪作業、1月28日陸羽東線でロータリーモーターカーが脱線した。会社は脱輪と報告しウヤムヤにした。2013年問題、出向者・エルダーの賃金、労働条件など60歳以上が働ける環境ではない。



●組織拡大は国労の組織状況は厳しい実態になる。分割・民営化の攻撃で少数派となった。しかし和解をいかして拡大が増えている。分会の状況は10人以下となり掲示板が無くなった。少数派だから、ひとりひとりの活動が増えて意思統一、信頼関係が深まった。集まる機会を作り拡大を第一として議論していく。国労の魅力について語り合い確認していく。必ず多数派につなげていく決意をし、持ち続け実践していく。  
 (裏面に続く)

分会で具体的な行動、役割分担をす  
る。少数での拡大行動を実践してい  
く。職場での労働条件が劣悪・厳し  
い実態がある。さまざまな雇用契約  
があり苦しい状況がある。

GSは契約期間が5年間。それよ  
りも早く辞めるGSもいる。国労だ  
からできる活動を進める。雇用の多  
様化よっての効率化、非正規の拡  
大など、安全上の問題も含め、GS  
の正社員化を求めていく。

春闘は、弱者に立った取り組み、  
国民に見える運動を積極的に向け取  
り組む。国民的な課題の改善に向け取  
り組む。ストを配置して闘っていく。  
貨物中央行動時に、あらゆる課題を  
結集して取り組んでいくこと。  
労働協約締結し生かした運動を進  
めていく。今後、どう現場で指導し  
ていくのか。



●労働協約と就業規則を上回る協約  
の締結を求めていく。JALの解雇  
闘争と整理解雇をさせない闘いを取  
り組んでいく。公共交通機関を軽  
視している。労働者が安心して働け  
る社会を作っていく。検修外注化  
とさまざまな問題が発生している。  
13項目を申し入れ交渉した。他労組



はストライキで闘っている。国労も  
ストを配置した闘いを取り組んでい  
く。グループ会社への出向者につ  
いて就業規則の改正を求めた。組合  
員の権利を守る。労働条件改善  
の取り組みを進める。組織拡大の  
組合説明会を現場で実施している。  
組織対策会議の開催・オルグの展開・  
積極的に大胆に取り組みを進めてい  
く。春闘とストライキを背景に闘  
いを取り組み、今春闘はストで闘う。  
労働協約締結について採決を求め  
る。

# ダンス・トラック パレード

## 4月21日(日)



●検修外注化と昨年7月に地方提案  
された。業務が委託され出向。分会  
で要求を作り交渉した。出向先の休  
日数が少ない・賃金面の補填はどう  
なるのか・除雪作業はどうなるのか・  
JRからの要請について修繕はどうな  
るか・遠距離通勤の解消など求め  
てきた。  
出向者は国労以外でも発生してい  
る。出向先の労働条件がJRより下  
になっている。改善を求めていく。労  
働条件改善の取り組み・委託会社へ  
の申し入れを取り組む。



●労働協約と昨年定期大会で多くの  
代議員から反対意見が出された。地  
方代表者会議でも、2地本の反対が  
あったが締結した。大会で決定すべ  
きだと考える。労働協約で「勤務一  
」に関して休日変更についてあるが変  
更は労基法違反ではないか。この内  
容では締結すべきでない。締結後は  
労使双方で責任を持つことについて  
どうしてこの内容で責任を持たなけ  
ればならないのか。締結について無  
記名投票で採決を。出向先の労働条  
件改善について交渉は地本独自でも  
やっている。春闘はストライキを  
背景にしながら取り組むこと。



●国労福島・放射能問題集會を開催  
し60名の仲間が結集した。福島原発  
の放射能と子ども達の現状、今後の  
運動を提起した。会社へ放射能ガレ  
キ対応や線量計の測定など追及した。  
福島原発の事故後、この問題を風化  
させてはならない。現在も低線量が  
検出される。福島健康管理を求め  
ていく。

組織拡大と2月2日、分会代表者  
会議を開催した。組織の10%を拡大  
目標に指示・分会組織委員会の設置  
行動内容の報告・分会活動の活性化  
を提起した。今回の提起は分会意識  
の向上に繋がっている。他労組への  
訴え・飲み会・ボーリング大会を開  
催し参加を呼びかけている。他労組  
への意識と調査の実施。財政面でも  
支えていくこと。検修外注化と出  
向先では作業検査社員が不足してい  
る。MTSと教育・知識が不足だ。  
問題はJRの管理体制が問われている。  
申し入れ、要求改善を図っていく。

●組織拡大と8月から12月に復帰・  
新規加入があった。脱退した当時を  
話し、世話役活動が報告されている。  
GSの新加入があった。新しい取り  
組みを提起・GSの正社員化の実現。  
労働協約を生かし、グループ会社の  
労働条件改善を実現していく。国労  
は労働協約を締結したことで他労組  
と同じ土俵に立ったことで組織拡大  
へつなげていく。エルダー社員は  
出向会社を断ると次が無い。出向内  
容の開示と本人希望の尊重を。

●労働協約締結に反対の立場。なぜ  
締結前に全分会長会議を開催しなかつ  
たのか。意見が出されている。なぜ  
締結を急ぐのか。2013春闘と  
今春闘は国民的課題と結合して取り  
組んでいくこと。全力で闘うことを  
意思統一する。ストライキを配置し  
た闘いを。ストライキで闘う意思表  
示を。

### 編集後記



今回はエリア本部の拡大委員会を  
特集しました。次号も特集します。  
委員の発言と書記長集約を載せる予  
定です。発言者の内容を簡略にしま  
したが少し長くなりました。拡大委  
員会の雰囲気を感じていただければ  
幸いです。